

みこころ



カトリック松山教会
〒790-0003 松山市三番町四丁目 5-5
TEL 089-921-1849 FAX 089-921-2109
ピーター・ジャ・レ神父 O.P.
発行 広報活動委員会

新しい希望の始まり

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えて、今年も信者の皆さんの上に、神様からの豊かな恵みと愛が注がれるよう、お祈りいたします。



カトリック松山教会
担当司祭
ピーター・
ジャ・レ神父 O.P

イエス様を通して神様を知り、信じているわたしたちの信仰の歩みがより深くなり、至る所で慈しみと愛と平和の多くの実を結ぶことが出来るよう、神様からの導きをお願いいたします。

救い主イエスの誕生という偉大な賜物を思い起こしながら、エマヌエル、神様は、時の終わりまで私たちとともにおられるという神の約束の成就を確信し、安心してクリスマスを祝いました。

私たちの心の中に、常に希望の光をもたらすことを思い出させるものです。



これは、25年ごとに行われる聖年を期待するにふさわしいものです。

教皇フランシスコは、今年の2025年を「希望の年」「聖年」として宣言しました。

戦争と気候変動、新型コロナウイルス感染症の大流行による破壊的な影響に苦しむ世界で、今年の『聖年』は希望と信頼を回復し、普遍的友愛感を回復し、共同体を大切にすることを切望し、「希望の巡礼者」というテーマを持っていきます。

「希望の巡礼者」という

テーマは、不確実性の中でも、神の約束を信頼して今年を旅することを私たちに勧めます。この新しい年の入り口に立ちながら、私たちは過去の恵みと教訓に感謝し、神様が私たちのために用意しておられるものに対する信仰をもって前進します。

時間は神様の最大の贈り物の一つです。暦の変化は、私たちの人生の巡礼を思い出させます。

毎年新しい年は、私たち自身を新しくし、神様に近づく機会であり、私たちの希望を深める機会です。



親愛なる友よ、希望は単なる楽観主義や希望的思考ではありません。

それは、神の愛と信頼に対する確固たる信頼であり、たとえその先の道がはっきりしていなくても。

預言者エレミヤは次のように述べています。「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」(エレミヤ29・11)

この新しい年に入るにつれて、神の計画は、たとえまだ理解できない形で展開されても、常に私たちのためにあるという真理を受け入れましょう。

教会は今年、私たちが希望の巡礼者に招待します。

巡礼者とは、何か神聖なものに向かって旅をしている人々のことです。希望は私たちの導きであり、暗闇の中の光であり、嵐の中の錨です。

次ページ続く

① 神様の約束に期待します

聖書は、神の約束を信じる人々の模範となっております。

アブラハムは多くの国々の父となり、多くの国々の民の父となりました。

私たちの母マリアは、神の計画を信頼し、私たちの救い主の母となりました。

私たちも神様の約束を信じて、神様の約束を信じるようにしましょう。

② 困難な時に希望を持っています

私たちの世界は、しばしば、戦争、分裂、個人的な闘争といった課題によって、特徴付けられています。

しかし、キリスト者として、私たちは希望の光となり、神が苦しみからでも、良いものをもたらすことができるかと信じています。

聖パウロは私たちにこう言います。

「私たちは苦しみが忍耐を生み、忍耐が人格を生み、人格が希望を生み出すことを知っています」

(ローマ5・3・4)

③ 他者への希望の巡礼者になりましょう

希望は自分自身に託すものではありません。それは共有されるための贈り物です。

このヨベルの年に、私たちは、親切的な行為、励ましの言葉、信仰に満ちた人生の模範を通して、他人に希望をもたらすことを決意しましょう。

この希望の旅を始めるにあたり、いくつかの解決策を考えてみましょう。



わたしたちは、祈りと典礼と聖餐を通して、神様との関係を深めます。

和解の道具となり、私たちの家族やコミュニティの壊れた関係を修復します。

貧しい人々、孤独な人々、疎外された人々の希望の源となり、困っている人々に奉仕しましょう。

この新しい年を始めるにあたり、私たちはあらゆる希望の源である神様に信頼を置きましょう。

希望の巡礼者として生きることによる喜びと平和が、私たちの人生に反映されますように。

一緒に、この旅を歩みましょう。神様が、私たちと共にいてくださることを確信しています。

今年は、聖母マリア、希望の聖母マリアの仲裁に任せましょう。

聖母マリアが私たちを、私たちの究極の希望であり、救い主であるイエス・キリストに近づけますように。

2025年には、皆さんと皆さんのご家族に神様の豊かな祝福がありますように。



聖年の幕開け



全世界の教会は、幼子イエスの誕生を喜び祝います。



ブ・リン神父・ジャ・レ神父

「静けき真夜中・・・」とクリスマスキャロルに歌われるように静寂の中に誕生します。



暖かいココアが振る舞われました。





諏訪 榮治郎司教

2024年も主の御降誕を、喜びをもって迎えました。

幼い時から「救い主」の意味が、実感として、わからず、いま、クリスマス教会で家族と祝っていました。しかし、高齢の身になってしみじみと教会の教えの断片的な事柄が、つながりを持ち、「救い主」の意味が身に染み、一つ一つの言葉に多彩な光があることに気づきます。



諏訪 榮治郎司教



そんな中で「クリスマスプレゼント」という言葉に立ち止まります。私たちを取り巻く世界は、権力者の互いの駆け引きや、激しい力関係の攻防の中で、目まぐるしく、混とんとこの世界を、揺さぶり動かしています。

そんな中でも、人々はこつこつと毎日を生きています。

もしこの世界に、愛や赦しが無くなったら、人類は誰も生きていくことができません。

愛がない世界で子どもは育たないでしょう。

人は互いに信じることもできなくなり、この世界は真つ暗になるでしょう。

言い方を変えると、この世界に愛と赦しがあるから、私たちは生きていけることを確信するのです。

「神の子イエスが生まれた」とは、神の愛と赦しがこの世界に与えられたことを心に深く受け止めたく思います。



この世界が、愛と赦しで満たされるように・・

神の子は馬小屋での誕生、

光り輝く壮麗な宮殿で

生まれたのでない。

人間であれば、誰もが恥ずかしい思いをしないうで行ける

馬小屋。

誰もがありのままに笑顔で微笑み、素直な気持ちで

「赤子」のもとを訪れる。

赤子の神の子は「私はあなたを愛している」と永遠にささやいているのです。

恐ろしい悪霊が漂う荒野に住み、悪い霊を吸って生きる人、羊飼いと町に住むことを拒否され、差別された人々だったのです。

天使たちは羊飼いたちに言ったのです。「これがあなたの方へのプレゼントです。」

この話を日雇い労働者の町、東京の山谷で語ったとき、

一人のおじさんが大きな声でシスターに

「お姉さん今の話ほんと？」

シスターが答えました。「本当です。」おじさんは肩を震わし涙を流しておられました。



「この子の言葉、その愛と赦しの心を食べてください。」

「これがあなたの方へのプレゼントです。」

イエスは、この世の完成の時まで自分の愛と赦し、その人格を与え続けることを弟子に託しました。これがミサとなっています。

神様が作られたこの世界が神の愛と赦しで満たされるように、平和を取り戻すことができるように、父なる神からのクリスマスプレゼントが与えられたのです。

そしてあなたも多くの人々への「プレゼント」となったのです。

諏訪 榮治郎司教様ですが、今月12日付けで、阪神地区の武庫之荘教会の主任として異動なさいました。

大学生のフィールドワーク



フィールドワークとは、教会など、日常的に行くことがないところへ、実際にその場所に行き肌で感じる体験授業です。そして、異なる年代の方々とのコミュニケーション(交流)ができる点です。

11月9日、授業の一環として行われ、松山大学の学生13名が参加しました。

一番興味を持ったのは告解室だ。神父様はここで聞いた話は誰にも言わないと聞いてはいたが、まさか警察ですら話さないのはとても驚いた。国家権力もかなわない秘密主義にはとても興味がわいた。



告解室という信者が司祭に罪を告白する部屋があることを知った。信徒は、司祭を通して神様に罪を告白し、神の許しを得る。司祭様が告解室で聞いた話は、たとえ犯罪にかかわっていたとしても、他の人や警察にも言ってはならないという事

に驚いた。重大な罪に関わっていることを知り、それを自分一人の中でとどめておかないといけないのは私だったらメンタルがやられると思った。



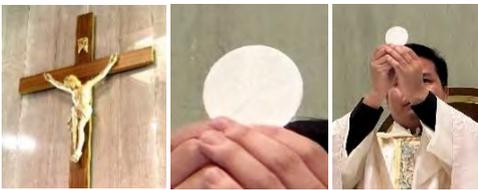
カトリック教会における祈りの解釈だ。聞く人によりさまざまな回答が得られ、率直に思ったのは解釈の広い行為だということだった。聖典を読み上げる儀式の祈りもあれば、人を祝福するものもあり、個人でカジュアルに行うものもあった。これらの祈りの中で最も興味を惹かれたのは、個人で行う祈りだ。この祈りに台本はなく、自らが神に伝えたいことやお願いしたいことを伝える瞑想(めいそう)のようなもので、彼らはこの行為を「神様との対話」と呼んでいた。

この個人の祈りの効力としておまじないのようなものがある。自分が助けを必要としているときや、苦難に直面した時に祈ると解決はできなくても耐え忍ぶ力はもらえると説明してくれた。

この祈りの説明から宗教の精神的支柱としての機能を一つ学んだ。

客観的にみると祈りとは神ではなく自分自身との対話で、神を信じることは自分を信じることに繋がることがわかった。苦難な状況に置かれた時に立ち向かうには自分を信じ抜く精神力が問われるが、信じる対象を神という絶対的な存在に置き換えることで彼らは自らを鼓舞し、人生の困難に立ち向かっている。

香部屋の中に入れて頂いた際、見せていただいたパンが印象的であった。聖櫃(せいひつ)(タバナカ)の中にパンを入れると、イエスの身体に変わり、(聖体)それを教会に来ていた人で食べるとい儀式を知らなかったため、自分の目で見ることができた貴重な経験であった。



想像していたブレッドの様なパンではなく、薄いペーストというより、せんべい状のパンであつたことに驚いた。

加えて十字架にイエスの像が張り付いているシンボルはカトリック。十字架そのもののシンボルはプロテスタントという事もはじめて知りました。



神父様が教会やカトリックの事を熱心に伝えてくださり、信者の方がにこやかに接して下さったおかげで、こちらも大変実のある体験を味わうことができました。

無宗教の私は、普段教会に入る機会がありません。生きた話を聞くことで、宗教はこんなにも生活に近く、人にとって必要不可欠な空気のように当たり前に必須なものとして存在することを肌で感じたことがすごく新鮮でした。



交流して下さった教会の皆様へ

私が印象に残っているのは、カトリック松山教会内のステンドグラスに描かれていたブドウです。ブドウはカトリック松山教会でミサが行われた時にイエスの血に変わるものだというを知りました。



紫・償い、回心の色
待降節、四旬節、死者のための典礼。



緑・希望
年間の典礼に用いられます。



赤・火、愛、殉教を示すシンボル
受難・聖霊降臨の主日、聖金曜日。



白・神の栄光と、純潔さ
喜びを表す典礼に使われます。

教会の司祭や牧師が着用する祭服の一種である「カズラ」について、カズラは、白・赤・緑・紫の全四種あり、それぞれ特定の日に着ることを知りました。世界的に葬式の際には、「紫」のカズラを着ることが多いが、日本の葬式の場合には、「白」のカズラをよく着用していることが分かりました。どれも色鮮やかで、装飾も細かく大変美しかった。



交流して下さった教会の皆様へ

普段は入ることのできない香部屋(こうべや)に入れさせてもらい、イエス様に捧げる。パンや器など驚きがたくさんありました。また、祭典の内容に応じて着衣を変え、服の色や朗読台などの布の色には意味があることが分かりました。



交流して下さった教会の皆様へ

授業の後半のお茶の時間では、詳細な活動や感じていることなどを打ち明けてくださり、本当に素晴らしい有意義な経験を積むことができました。教室で講義を受けるのとは違って、実際に、自分の目で教会を見るところという大変貴重な体験でした。



交流して下さった教会の皆様へ

私は何かの宗教を信仰する理由は心のよりどころが欲しいからという理由だと考えていましたが、それ以外の理由があることにとても驚きました。キリスト教には他の宗教にはない魅力的な特徴があったので、もし機会があればいつか足を運んでみようかなと思いました。



交流して下さった教会の皆様へ

僕は運よく神父様と一緒に席でお話することができたので、これからの人生に役立つようなこと。沢山教えていただきました。これからの自分の宗教だけでなくキリスト教やイスラム教などの他の宗教にも目を向けて生きて行くように思います。



交流して下さった教会の皆様へ

教会に初めて入りましたが、イメージ通り、きれいで神聖さを感じる場所でした。印象に残っているのが、偉い人とは、「仕えられる人でなくて、仕える人だ」というお話です。



交流して下さった教会の皆様へ

私が一番興味を持ったのは、どんな人にも神様からその人を守るように命じられた天使がいるということ。この考え方はとても素晴らしいと思います。

信者の方々も気さくにお話をしていただき楽しい時間を過ごすことができました。クリスマスなど機会があれば、是非また行かせて頂きます。



12月1日

カトリック教会における黙想の会。

日常の生活環境や仕事から一定の期間離れて自分の霊的生活に必要な決心をするために、孤独な場所に引きこもり、黙想、反省、祈りの時を過ごすことである。



12月1日の黙想会は、今治教会のヨセフ神父様による講和で、信徒40人余りが参加しました。ヨセフ神父様はベトナム生まれで、8人兄弟の8番目の末っ子です。

自分召命の道、8歳より召し出しを感じて、歩み始めました。司祭職に興味があり、司祭の服にすぐ慣れていて、18歳のときに神様に呼ばれることを強く感じました。

ベトナム教会が誕生されたのは、日本宣教師のおかげです。

逆に、日本教会の宣教活動がされたのはベトナム教会のおかげでもあります。

待降節は、イエス様が再び降りて来られることを待ち望む時期であります。

2000年前にイエス様が世に来られたことを思うだけでなく、世の終わりに栄光のうちに再び来られることを思う季節です。

待降節はA・B・C年の聖書朗読があります。今年の待降節はC年に当たります。

待降節第1主日。人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。

待降節第2主日。

荒野で叫ぶ者の声とする主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。

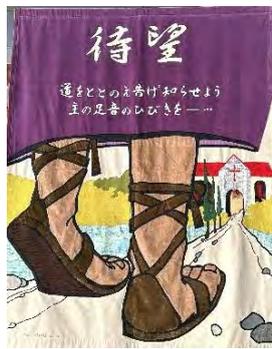
谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。

曲がった道はまっすぐに、聖書で使われている「道」と言う用語は日本語の「道」と同じようにいろいろ深い意味を持ちます。

間違った道、正しい道もある。救いに通じる道も滅びに通じる道もある。



ヨセフ 郷 文成



キリストの道を歩む者はいつまでも求道者でなければならぬ。私たちは人々がキリストと出会うための道を準備する者、道を指し示す者になりたい。

待降節第3主日。徴税人も、兵士も、民衆もヨハネに「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。

待降節第4主日。あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。 (エリサベト訪問場面)

2025年の聖年に向けて、シノドスの教会、霊的な教会を目指して行くのです。



霊における会話により聖霊に導かれ、様々違い(国籍・考え方・文化・習慣)を超えて、私たちは兄弟姉妹という感覚で、ともに交わり、ともに祈り、熱心に宣教するように取り組んで行きましょう。

心を開く・まず心を開く必要があります。心を開いて、他者を受け入れる。

「エツファタ」という言葉がある。「開く」との意味です。

イエスの前に耳が聞こえず口が利けない人が連れてこられた。

イエスは「エツファタ」の言葉を持ち、耳を開き、口がきけるようになった。

交わる・共同体を通じて、集まって、交わり、分かち合う。

そこで神に出会い、人に出会う。共同体のおかげで信仰が育まれます。

ともに歩む・立場の異なる人を尊重し、ともに共同体を作ります。

ともに祈り、祈りを分かち合う。そして、分かち合ったものをともに聞く。

神が望んでおられることです。

キリシタン墓地を訪問

10月22日、味酒小学校3年生の児童たちが、キリシタン墓地を訪ねてくれました。その時の思いや感想をつづてくれました。



カトリック松山墓地

キリシタン墓地にあるキリシタン記念碑は3メートルもあると分かりました。
 キリシタン墓地ではたくさんの十字架があり驚きました。
 江戸時代よりも前にキリシタンが禁止されていたことを知ってとてもびっくりしました。
 私はキリシタンが十字架の上で殺されてしまったということが驚きました。だから十字架がお墓にあるんだと思います。
 かくれキリシタンが四国に合わせて3450人流されてきて、松山には86人来たと知ってびっくりしました。
 昔にはひどいことがあったと分かりました。
 キリシタンたちの歴史を教えてもらい勉強になりました。

来てみるとたいへん綺麗でした。
 多くはカトリック松山墓地のところに建物がある、その中に骨を焼いて小さくした物が建物の中にあつたなんてびっくりしました。



キリシタン墓地には400人も眠っていることが分かって驚きました。
 お墓の字が英語でびっくりしました。

日本とはちがうので外国の文化がよくわかりました。

キリシタン墓地のみなさんに気を付けてください。

キリスト教のことを教えてくれてありがとうございます。

死者の日の祈り

カトリック教会では、11月を「死者の月」として、亡くなった人々を思い起こし、祈りを捧げる習慣があります。これは、1日が「諸聖人の日」で、天国にいる聖人に私たちも神様のみもとに行けるように取次を願います。



2日が「死者の日」とされて、亡くなってまだ天国に入れていない方々のために祈ります。
 松山教会では、亡くなられた方々の名前を書いて、祭壇に捧げます。

カトリック信徒、未信徒関係なく、亡くなった身近な人を思い起こしみんな祈りを捧げます。



死者の日の祈り

永遠の恵みを与えてくださる神よ。

この世から永遠なるあなたのもとに召されたすべての人をあなた限りなくいづくしみにゆだねます。あなたは御子キリストの尊い血によってあがなわれた全ての者を待っていてくださいます。

キリストの死によって、私たちは罪から解放されました。
 祝福か罰かの裁きを私たちに下されるときには、ど

うか数々の貧しさや至らなき、人間的弱さに目を向けないでください。

優しいみ心をもって、あわれみのまなざしを私たちに注いでください。

清めの道を歩む私たちを支えてください。

あなたの子らをだれ一人として、悔い改めることもできない地獄の永遠の火の中に打ち捨て置かないでください。



秘跡の慰めを受けることなく亡くなった者たち、死の際においても悔い改めの機会をもたなかった者たち、そうした愛する者たちの魂を主にゆだねます。

地上の旅路を終えたすべての人が、あなたの限らない慈しみに抱かれる希望をもって、恐れることなくあなたと出会うことができますように。

姉妹である肉体の死よ、あなたは絶えざる祈りももつて心を向ける私たちに気づきます。

また、人生の長さにかかわらず私たちが行う善は、あなたの上に積まれます。

主よ、祈ります。何ものも、この世にいる私たちをあなたから引き離すことがありませんように。

安らかに永遠にあなたのもとで憩うことを強く願う私たちが、すべてのもの、人々によって支えられますように。アーメン。

布ポスト協力へ

「布ポスト」 おてふきの会 一同

いつも不要布の提供にご協力頂き、ありがとうございます。

お陰で、神父様の許可のもと、

「布ポスト」の段ボール箱を第四集会室の前に置くことになりました。



布ポストの協力

ハンカチぐらゐの大きさに切って、

「北条のマルチンの家」に入所なさっている方々の、手足を拭いたり、お尻の清潔さを保つ為に活用させて頂いています。

例えば「Tシャツ、タオル、シート、パジャマ、木の衣類など」何でも結構です。

皆さんの優しいお気遣いを、不要の布に託して再利用したいと励んでいます。

一人ひとりにお会いして、お礼を伝えることが難しいのですが、どうか宜しくお願いします。

●帰天者（12月現在）

- 5/14 フランススカ 高橋 美江さん（70）
- 9/13 アウグスチヌス 福井 武さん（84）
- マリア ポーマント君子さん（95）
- 11/30 パウロ三木 足立 純一さん（86）
- 12/9 ヨセフ 白石 俊則さん（72）
- 12/21 マリア・エスペランサ
- 羽石 万佐子さん（75）

●転出者 なし

●転入者 なし

教会維持費の振込先

ゆうちょ銀行
 口座名：
 カトリック聖ドミニコ修道会
 イエズスの聖心教会
 記号
 16160
 番号
 26197851



おしらせ

教会維持費ですが、ゆうちょ銀行への振り込みが可能です。